

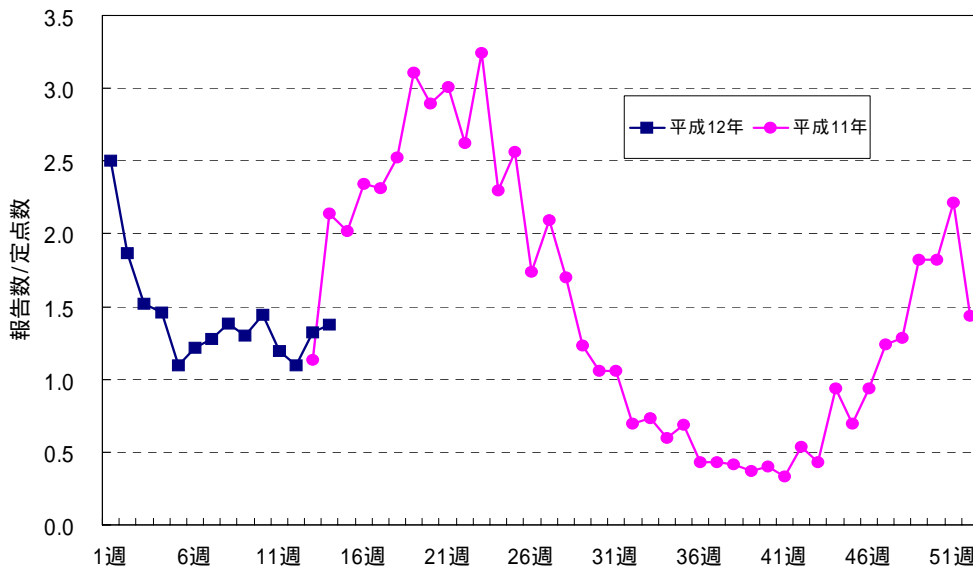
# 愛知県感染症情報

## 平成 12 年第 14 週 ( 4 月 第 1 週 )

( コメント )

感染性胃腸炎及び水痘は、依然流行しています。特に水痘は、昨年は 5 月中旬にピークをむかえています。

ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の散発発生が見られ始めています。



水痘 (名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)

( 先生方からのコメント )

- ・ 毛細気管支炎様症状の児がいます。  
( 豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科 )
- ・ 新学期がはじまって感染症はかなり落ち着いてきました。  
( 豊橋市 あずまだこどもクリニック )
- ・ 伝染性紅斑の児は、他から転居した児です。今週も感冒性胃腸炎が目立つも症状は軽い。  
( 田原町 かわせ小児科 )
- ・ 病原性大腸菌 0-6 VT1、VT2(-)  
( 幸田町 とみた小児科 )
- ・ 病原性大腸菌 0-6 5才女  
ロタ(-)の白色便数例、ロタ(+)も混在  
( 岡崎市 花田こどもクリニック )

- ・ カンピロバクター2名（9才女、11才男）  
 サルモネラ 0-7 7才男  
 （岡崎市 にいのみ小児科）
- ・ マイコプラズマ肺炎 5才男  
 感染性胃腸炎中（ロタウイルス 1才11ヶ月女、病原性大腸菌 0-1 V  
 T1、VT2(-) 1才1ヶ月女）  
 （岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院）
- ・ 依然として、嘔吐、下痢が続いています。  
 （西尾市 やすい小児科）
- ・ 今シーズン（3月7日から）今まで伝染性紅斑 15名。再発 2名  
 10日～2週間後、誘因不明  
 （西尾市 こどもクリニック宮地医院）
- ・ 水痘が増えてきた印象です  
 （碧南市 永井小児クリニック）
- ・ 子から母への感染性胃腸炎がチラホラありました。  
 （豊田市 わかぞの東洋クリニック）
- ・ 病原性大腸菌0-18 2名（1才女、1才男）、0-1 2名（1才女、2才男）、  
 0-6 3才男  
 エルシニア腸炎（3才男）  
 （豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック）
- ・ ロタウイルス抗原陰性の感染性胃腸炎がはやっています。  
 （東海市 東海市民病院）
- ・ ウイルス性胃腸炎は減少してきました。  
 咽頭結膜炎（アデノ陽性）2例（1才、3才）。  
 ウイルス性クループより肺炎を起こした例がありました（1才、3才）  
 （瀬戸市 津田こどもクリニック）
- ・ 溶連菌、突発性、Mumps等散発  
 乳幼児下痢症まだ認められますが、重症例はありません。  
 マイコプラズマ感染症成人、学童が目立ちます。  
 （尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院）
- ・ 手足口病も終焉してきました。  
 （春日井市 かがわ北病院）
- ・ ロタ胃腸炎も減少しています。  
 （小牧市 小牧市民病院）

- ・ 急性胃腸炎 嘔吐強く2日間点滴するもの多し。

(岩倉市 なかよしこどもクリニック)

- ・ 麻疹 1才男(予防接種未施行)

ヘルペス口内炎 2才女

比較的落ち着いた一週間でした。

(江南市 みやぐちこどもクリニック)

なお、第13週報の知立市 近藤こどもクリニックの「病原性大腸菌 0-1 VT1、VT2(+)」とあるのは、「VT1、VT2(-)」の間違いでした。

(1~3類感染症の発生状況)

発生はありません

(全数把握の4類感染症の発生状況)

マラリア患者1名。

急性ウイルス性肝炎A型患者2名

第12週(平成12年3月20日~3月26日)の4類感染症の全国状況  
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘の定点当たり報告数が例年の同時期より多い。感染性胃腸炎は患者報告数が多く、過去10年間で最大の流行曲線を描いている。患者の年齢階級別で見ると、1歳児と2歳児で全体の約3割を占め、ピークは1歳にある。麻疹は依然流行のみられる大阪府、千葉県、香川県に加え、兵庫県や岐阜県でも患者報告数が多くなっている。非流行期の咽頭結膜熱、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎の定点当たり報告数が例年より多くなっており、流行性角結膜炎は滋賀県で定点当たり報告数7.5、茨城県で3.4となっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

花が咲いて花が散れば、と古いドイツ民謡を思い出しながら医学部の構内を歩いていますと真新しい白衣を着た学生諸君の一回に出会う昨今です。いつも貴重な情報を有難うございます。遅くなりましたが3月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：比較的低温の毎日のせいでしょうか、ウイルス性の下痢症が各地区で目立っています。年少児中心でロタウイルス陽性の例が多い地区と年長児にも広がっていて嘔吐が中心で小型粒子ウイルスを思わせる地区があるようです。脱水による要入院も目立っています（第一日赤有吉先生、名鉄病院宮津先生、国立病院松下先生、第二日赤岩佐先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、中京病院柴田先生、大同病院水野先生）。ウイルス性下痢だけではなくて病原性大腸菌（O1、O18）による細菌性下痢症の報告もいただいています（三菱病院岩間先生）。気道感染症では気管支炎、喘息性気管支炎の入院例や気管支肺炎、RSウイルス感染症、乳児の細気管支炎が目立っています（第一日赤有吉先生、名鉄・宮津先生、国立・松下先生、第二日赤岩佐先生、城北・渡辺先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、大同・水野先生）。その他EBウイルス感染症（第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生）が散発、麻疹が市北部・西部で発生中で（第一日赤有吉先生、名鉄・宮津先生、国立・松下先生）、第二日赤岩佐先生からの百日咳が2例入院したとのお知らせとともにワクチン普及の努力の重要性を実感しています。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎多発中で水痘、ムンプス、溶連菌感染症が散発中、津島市民病院長田先生からは溶連菌感染症増加、江南市からはロタウイルスを主体とした乳児のウイルス性下痢症（重症で要入院例目立つ）、年長児の嘔吐下痢症、RSウイルス感染症、溶連菌感染症、麻疹発生の報告です（昭和病院丸地先生、愛北病院水谷先生）。常滑市民病院肥田先生からはロタウイルス感染症が残っていて水痘散発中、市立半田病院病院中島先生からはやや下火になったがロタウイルス腸炎発生中とのお手紙でした。

3. 三河地区：豊田市竹内病院梶田先生からは感染性胃腸炎がまだ目立ち水痘が散発中、岡崎市民病院系洲先生からは外来では感染性胃腸炎が多く、ロタウイルス感染症の入院例が目立つ、安城更生病院小川先生からはロタウイルス感染症の流行が続いていて要入院例目立つ、知立市近藤先生からはロタウイルス陽性例を含めて感染性腸炎が多く、病原性大腸菌（O1）感染症3例あり、刈谷市田和先生からはロタ（+）を含む（白色便も）嘔吐下痢症が乳児～幼児で続き、学童で嘔吐だけの例もあり、碧南市永井先生からはロタウイルス感染症が引き続き流行中で水痘、溶連菌感染症も少し増加中、豊橋市宮澤先生からは乳児嘔吐下痢症が目立つとのお手紙でした。有難うございました。（文責 磯村）